



「お互いを認め合い、お互いに支え合い、 お互いが集い合える“心豊かなひがしやま”」

—第三期東山区地域福祉活動計画(指針)を策定—



貞教学区「まちの縁側」

東山区社会福祉協議会では、このたび第三期東山区地域福祉活動計画を策定しました。これは平成25年4月から30年3月の間、重点的に取り組む社協活動を定めたものです。

今回の計画では、特に、地域の中で困りごとを抱えている方に対して、見守りや課題の発見、相談活動、必要なサービスや専門機関へのつなぎなどを通じて課題解決を行う取組みを重視していきます。

1. 基本目標

「お互いを認め合い、お互いに支え合い、お互いが集い合える“心豊かなひがしやま”」

2. 取組みの方向

(1) 見守り活動の推進

見守りが必要な方に対する、目配りや声かけ、訪問活動を充実します。

(2) 居場所づくり活動の推進

学区単位のサロンや“まちの縁側”など、誰もが気軽に寄れる居場所を充実します。

(3) 相談活動の推進

悩み事や生活の不安を抱える方の声を受け止める活動に取組みます。

(4) 活動拠点の確保

見守り、居場所、相談活動に必要な拠点確保をすすめていきます。

(5) 「生活福祉資金」「日常生活自立支援事業」を活用したセーフティネットの構築

東山区社協が実施する上記事業を、困りごと解決のためにより積極的に活用します。

(6) 区社協のアウトリーチと関係機関との連携による生活支援の推進

問題を抱え、孤立している人への支援活動を重視します。

「まちの縁側」はじめませんか

ゆるやかにつながり合う
新しいまちづくりの取り組み



新しく始まったまちの縁側サロン（貞教学区森本さん宅）

かつてあちこちの家々で見ることができた「縁側」。そこは隣近所どうし気軽に立ち寄り、あいさつを交わしたり、お茶を飲みながら世間話をしたり、将棋を指したり…。肩ひじ張った話し合いではなく、ゆるやかにつながり合う居場所でした。

東山区社会福祉協議会では、今後、この「縁側」が持っていた機能を土台に、新しいまちづくりを住民の皆さんとすすめたいと考えています。その名も「まちの縁側」づくり。

シンポジウムを開催

2月25日「まちの縁側」をひろく住民の皆様にご存知と申されたいと開催した平成24年度東山区地域福祉シンポジウム「ヒト・モノ・コトがゆるやかにつながり合う

地域の居場所——『まちの縁側』のススメ（会場：東山区役所）から、「まちの縁側」の魅力、先進地の取り組み例の一端をご紹介します。



シンポジウムの様子

探検・発見・ほっとけんの旅へ出よう

「縁側」がまちを育む



参加者の様子

わたしは 私発ではじめよう——延藤



「まちの縁側」によるまちづくりの提唱者・延藤安弘さんは「ヒト・モノ・コトがゆるやかにつながり合う地域の居場所『まちの縁側』」を全編大阪弁で、愉快地にそして熱く語りました。

まず、イギリスの絵本を題材にまちづくりの理念や人と人がつながり合うことの面白さ、イ

戸建て住宅が集まるある地区では、一組の夫婦が将来地区は急速に高齢化が進み大変なことになる。今から住民どうしの結びつきを大切にしたいと提案したが、だれ一人協力してくれなかった。しかし、夫婦はそこであきらめず、まず自宅前に椅子とテーブルを置き、通りがかる住民に「お茶を飲んでいきませんか」と声を掛けることを始めた。はじめはいぶかしげに見ていた人もいたが、そこから少しずつ人と人とのふれあいが生まれ、いつか自宅前は老若男女いろいろな人がゆるやかにつながる心地よい居場所となった。



東山区地域福祉推進委員会
松永洋子委員長

延藤さんはこう強調しています。「組織や行政など上から言われてつくるのではなく私発で始めるのがまちの縁側です。まちの縁側とはもの名前ではなく心の有り様を表す言葉です」

「まちの縁側」はすでにある宝の 発掘・出会いをたのしもう——西沢

続いて西沢さんが長野市でのまちの縁側づくりの経験を報告しました。

長野市は7年前から市社会福祉協議会ボランティアセ



ンターのまちの縁側推進プロジェクトチームによって、市内5000か所のまちの縁側づくりをめざすと取り組みを進め、現在3000か所（推定）にまで増えています（同市人口は約38万人）。

社協の事業として定期的に開催するイベント以外にも、ゆるやかで日常的につながる居場所づくりの必要性を感じていたところ、延藤さんと出会い「まちの縁側」への取り組みが始まりました。

長野市の特徴はスタッフが縁側をつくるのではなく、まちのなかにある縁側を発見していくこと。西沢さんによると「自分たちがまちの縁側をつくっていかなければと思っていたが、市内のあちこちには同じような思いを持っている人、自宅や商店や神社、公共施設などですでにまちの縁側的なことを始めている人がいた」ことに気づかされたと言います。

それからは、市内で人が集まっていそうな場所をくまなく歩く活動を始め、たくさんの縁側が発見できたそう



です。その縁側を広報紙や紙芝居、さらには寸劇などを通じて地域の方に紹介したり、『まちの縁側だよ 全員集合!!』と題する交流会を開いたりすることで、さらに触発された市民が新たな縁側をはじめ「縁側ムーブメント」が起きているそうです。

また、まちの縁側が広がるに



「太鼓判」を持つ西沢さん

したが行政も変化、市内32地区で策定されている地域福祉活動計画の中では、現在半数以上の地区で「まちの縁側事業」が盛り込まれ、また地域包括センターとの連携も生まれはじめています。

●まちの縁側太鼓判 (写真)

長野市では「まちの縁側」にはこのような木製の小さな表示板を設置してもらっている。これによりそこが「まちの縁側」であることを周囲に認識してもらえたとともに、そのことで「まちの縁側」としての機能を高めることになるという。



まちの縁側に置かれる長野市の「太鼓判」

●「ひがしやまいばしょ」

延藤さんはシンポジウムの最後に、今後東山で「まちの縁側」づくりを始めるにあたって以下の8つのキーワードをあげてしめくくった。各項目の冒頭の1字をつなぎ合わせると…。

- **ヒ**ト・モノ・コトのゆるやかなつながりは心身の回復、生き甲斐を育む (目標)
- **我**を生かし私発の得意技をまわりにおすそわけ (自己実現)
- **し**なやかに楽しいことを重ねよう (持続力)
- **ヤ**ングのセンスとパワーが状況を変える (世代連携)
- **ま**ちのタカラ・人のタカラの探検・発見・ホットケン (地域資源・人的資源の発掘)
- **椅**子を置くことから始まる、多様な縁側、看板づくりへ (私発広報)
- **場**にあった運営の担い手の育みと、運営費の工面 (運営)
- **しょ**っ中トラブル、エネルギーに変えよう (対話合意)

【講師紹介】

延藤安弘 (えんどうやすひろ)

1940年大阪生まれ。京都大学大学院修了。熊本大学、千葉大学教授などを経て、2003年4月からNPO法人まちの縁側育み隊代表理事。2005年4月から2012年12月まで愛知産業大学大学院教授。工学博士。幼い頃から絵本好き。日々、絵本の発想——子ども・生きものを慈しみ遊び心を大切に——を実現する住まい・まち育て研究・実践の全国行脚を続けている。著書に『こんな家に住みたいナ——絵本にみる住宅と都市』（晶文社）、『マンションをふるさとしたユーコート物語——これからの集合住宅育て』（共著、昭和堂）、『まち再生の術語集』（岩波書店）他多数。

西沢淑恵 (にしざわよしえ)

長野市社会福祉協議会ボランティアコーディネーター。長野市松代ふれあい交流ひろば（同市社協施設）にて、立ち上げから5年間勤務後、長野市ボランティアセンターに赴任。松代時代からまちの縁側推進に関わり、担当者として現在に至る。個人としては、ボランティアでつくるインターネットテレビ、まちの放送局「まつしろテレビ局」において住民ディレクターとしてまちづくりに取り組む。

ボランティア入門講座

ボランティア活動に関心のある方を対象に、東山区ボランティア入門講座を3月25日(月)に開催しました。今回は、東山区ボランティアセンターの中に併設されている、こころのふれあい交流サロン“ふらっとろすぺえす”で活動されているボランティアさんの声を聞く場となりました。「ボランティアをさせてもらっているより、皆さんにお世話になっている」とのボランティアさんの言葉に、受講者の皆さんが耳を傾けておられました。

☆ふらっとろすぺえすの紹介☆

障害のある人もない人も誰もが気軽に交流できる居場所です。自由に入出入りできるので、おいしいコーヒーを飲んだり、音楽や時にはスポーツを楽しみながら、ゆったりとしたひとときを過ごせます。お近くにお立ち寄りの際はぜひ、お越しくださいませ。

☆ご利用日☆

毎週月・水・木・金曜日(祝日は休み)
10:30~16:30(喫茶のオーダーストップは16:00)



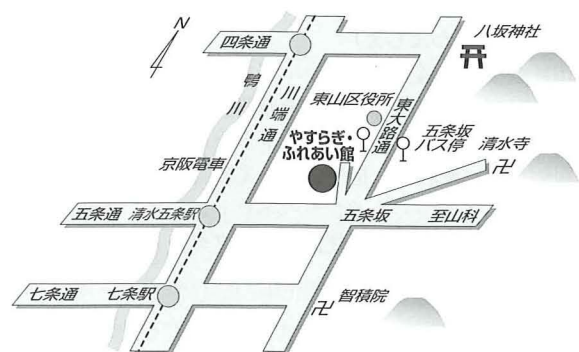
更新時期です!!

ボランティア活動をされる際の万が一の事故に備える

ボランティア保険

- ❖活動している途中、相手にケガをさせてしまった…
- ❖活動先で物を壊してしまった…
- ❖活動している途中、自分が持っていたカメラを落として壊してしまった…

ボランティア保険に加入するということは、自分を守るのと同時に、相手を守ることもつながります。2012年度ボランティア保険は2013年3月31日までが保険期間となります。新年度の継続がまだお済でない方は活動をされる前にお手続きをお忘れなくお願いします。



問い合わせ先

東山区五条通大和大路東入5丁目梅林町576-5
「やすらぎ・ふれあい館」内
社会福祉法人 京都市東山区社会福祉協議会
東山区ボランティアセンター
TEL(075)551-4849 FAX(075)551-4858
E-mail:fukusi07@mediawars.ne.jp

園芸福祉

ガーデン de ひがしやま

～健康生きがいつくり事業～



家庭とは違った大きな菜園で仲間とふれあいながら園芸活動を行ってみませんか?

東山区社会福祉協議会では、このたび、65歳以上の方を対象とした「ガーデンdeひがしやま」の参加者を募集します。

「ガーデンdeひがしやま」とは園芸活動を通じて仲間と楽しみながら、健康の維持、増進を図る取り組みです。新しい仲間とともに充実した活動を楽しみましょう。

- ◆期間：平成25年6月～平成26年3月末(1年単位更新)
※26年4月以降の活動については主催者より年度末に継続意思を確認します。
- ◆活動場所：京都女子大学附属小学校 第二運動場
- ◆活動内容：◎定例活動日(全員による作業とミーティング)
毎週木曜日13:30～15:30
◎水やり等管理当番 週1回程度の朝、夕の水やり
担当日は全員で協議の上、決定
- ◆定員：若干名(申込み多数の場合は抽選)
- ◆参加費：年間1,000円
- ◆対象：東山区にお住まいの方
○65歳以上の方で園芸や仲間づくりに意欲のある方
○毎週木曜日の定例活動日に参加できる方
○水やり等管理当番を行える方
- ◆申込み：参加希望の方は下記までご連絡下さい。
その際、氏名、年齢、住所、お電話番号、健康状態などをお伝え下さい。
京都市東山区社会福祉協議会(担当：上田)
TEL(075)551-4849 FAX(075)551-4858

